

諫早総合病院地域医療支援病院運営委員会・地域協議会

令和5年度第4回会議議事録

日時:令和6年2月15日(木)14:00～

会場:諫早総合病院 6階大会議室

書記:総務企画課 千田 友也

- 参加者 別添資料のとおり(院外7名・院内4名・事務局3名)
諫早市健康保険部部長 佐藤様、諫早医師会長副会長 吉田様、
元諫早商工会議所専務理事 森様、利用者の代表 川下様
都合により欠席。

《議 事》

(1)紹介率・逆紹介率について・・・1-11頁

紹介率について、10～12月の平均が2.6%増加。

紹介件数は、10月は+184件、11月は+90件、12月は+2件であった。

診療科別では、消化器内科、小児科、脳神経外科、眼科が前年度より大きく増加している。整形外科、泌尿器科、歯科口腔外科は大きく減少している。

逆紹介率は、前年度の10～12月と比較して大きな変化はなし。

逆紹介件数は、10月は+61件、11月は-128件、12月は-122件となっている。

診療科別逆紹介数は、内科、小児科が大きく増加している。

(長郷院長)

眼科は4月から常勤医を1名配置できたことで紹介数が増えた。脳神経外科も同様に増えてきている。小児科は新型コロナウイルスが少し落ち着き、こども準夜診療センターを含め増えてきている。消化器内科は高齢者の胆石、胆道疾患などの需要が増えていると思われる。

整形外科は諫早記念病院の理事長が交代して、整形外科の手術をできる医師を連れてこられ、諫早記念病院へ紹介が流れている。泌尿器科については、大幅に減っているわけではなく、月による変動である。歯科口腔外科は10月から1名医師が減ったためであるが、長崎大学病院から応援医師を派遣していただいているので、地域の診療に影響が出るものではない。

逆紹介率が増えている点については、紹介患者が増えればクリニック等へ逆紹介するため同様に増えている。

(2) 救急患者・外来患者について・・・12-19 頁

救急患者数は、前年度の 10～12 月と比較して 10 月は-118 件、11 月は-78 件、12 月は-100 件となっている。

ウォークイン件数は、10 月は-153 件、11 月は-105 件、12 月は-96 件となっている。

救急車来院件数は、10 月は+35 件、11 月は+30 件、12 月は-4 件となっている。

救急患者の入院割合は 10～12 月では前年度より増加している。10 月は±0%、11 月は+4%、12 月は+4%となっている。

次に時間外に来院した患者を時間帯別に表した資料である。時間帯を 6 時から 8 時の早朝、8 時から 17 時の昼間、17 時から 22 時の夜間、22 時から 6 時の深夜に分け、さらに平日、休日別に分けている。

ひと月の時間帯別の平均患者数は、平日早朝が 8 人、平日夜間が 106.3 人、平日深夜が 58.3 人、休日早朝が 5.7 人、休日昼間が 119.3 人、休日夜間が 55.7 人、休日深夜が 33.7 人となっている。

さらに諫早市内、諫早市外に分けると、平日早朝(諫早市内)が 7.7 人、(諫早市外)が 0.3 人、平日夜間(諫早市内)が 85.3 人、(諫早市外)が 17 人、平日深夜(諫早市内)が 47.6 人、(諫早市外)が 10.7 人、休日早朝(諫早市内)が 4.3 人、(諫早市外)が 1.3 人、休日昼間(諫早市内)が 88.3 人、(諫早市外)が 31 人、休日夜間(諫早市内)が 43.7 人、(諫早市外)が 12 人、休日深夜(諫早市内)が 26.3 人、(諫早市外)が 7.3 人となっている。

1 日あたりの平均外来患者数は、前年度の 10～12 月と比較して大きな変化はなし。

(長郷院長)

救急車来院の数が増え、そのうちの入院割合も若干増えている。それでも全体の 6 割程度である。ウォークイン患者が減っている原因については不明である。

時間帯別の患者数について、多いのは 17 時～22 時の間である。平日深夜もそれなりの患者が来院する。また、病気の種類によっては明け方などの時間帯に発症しやすいものもあるので仕方のないところもある。

時間外の患者で注目すべきは、諫早市内・市外の割合で、平日は諫早市内が多い傾向であるのに対し、平日深夜、休日は諫早市外が増える。島原地域等の医療体制が整っていないことが考えられる。

(山口)

#7119 の状況はどのようにになっているか。

(加藤)

#7119 の導入に向けて各市長と協議を進めてきた。12 月に全市長の許可をいた

だき、来年度から全県下にて導入することが決まった。4月に入札を行い、夏頃には導入できるのではないかと予定している。

(山口)

諫早市の小児科の先生1名が、2月いっぱいまで標榜を取り下げる話がある。また、その先生以外にも1名が体調を崩されて休診される。小児科医の減少のため、休日当番を組めない状況になりつつあり、今週末に小児科の先生に集まってもらい、検討をする。県や保健所とも調整し、よい解決案を考えていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

(西)

診療時間外や、こども準夜センターで対応できない場合は、諫早総合病院へお願いするケースが多く、全体的に件数が増えてしまう傾向にある。

(3) 共同利用について・・・20 頁

開放病床については、10月～12月の利用はなし。CTの利用件数は、前年度と大差がなく、10月は+10件、11月は-16件、12月は+9件となっている。MRIの利用件数は前年度より減少傾向にあり、10月は±0件、11月は-10件、12月は-18件となっている。

(長郷院長)

CT、MRI に関しては若干減っているが、ニーズがあればいつでも引き受ける体制にはしている。

(4) 諫早市こども準夜診療センター・・・21～22 頁

前年度の10～12月と比較して10月は+29件、11月は+84件、12月は145件と増加している。

(長郷院長)

若干増加しているが、コロナ禍前に比べればまだまだ少ない。

また実際に対応している先生方に話を聞くと、翌日が休日の場合、開業医では採血検査などをできないので、以前のように行ってほしいほしいという意見があり、限られた症例ではあるが、できる範囲で行っていくこととした。

(5) 患者相談実績について・・・22 頁

退院調整に関わる相談件数は、入院ベッドの稼働状況に応じて件数が変化している。概ね前年度と同じくらいの件数である。

(長郷)

アルツハイマー認知症に対するレカネマブが保険承認され、治療希望や問合せなどがでてくる可能性があるので、当院ですべて受け入れるのではなく、開業医と連携を進めていく。

(事務局)

12月に1件問合せがあった。

(長郷)

基本的には開業医の先生方に窓口になっていただき、対象を絞ってもらい、当院で対応していきたい。

(6) 研修会の開催状況について・・・23 頁

認定看護師による院外関係者向けの WEB 研修を実施している。

12月14日には令和5年度第3回の健康講座を開催予定である。

10月19日に多良見図書館で認知症研修を実施した。

(長郷)

認知症研修は医師による講演もあり好評である。

(事務局)

今年度の認知症研修への参加者は60名で、全体の満足度は77%ほどである。

コメントでは、現場の方の話を聞くと頭に入りやすいという意見があった。

(長郷)

認定看護師による院外関係者向けの研修も実施している。

(福島)

月1回ほどの頻度で様々な認定看護師が実施している。

(事務局)

広報は、年間のスケジュールを関係各所へ FAX で送っていることと、当院の広報誌へ掲載している。

(長郷)

今後はメール等を活用して広報して欲しい。

(一ノ瀬)

どの分野の認定看護師が実施しているのか、具体的に教えていただきたい。

(福島)

お調べして、改めて回答させていただきます。

(中尾)

住民向けの研修会は医師会も実施していると思うが、諫早総合病院と連携して

行っていることはあるのか。

(山口)

今は諫早総合病院と連携して行っていることはない。

(中尾)

看護協会でも、独自でまちの保健室とって図書館などで生活指導などのイベントを行っているが、薬の相談など色々あるので、一緒にできないかと考えている。

(長郷)

救急隊で何か問題などはあるのか。

(西)

搬送先を決めるのに時間を要している。病院は、コロナ患者やインフルエンザ患者が増えてきて、ベッドが満床のため受入れが出来ないとのことで断られる。

(長郷)

当院でも救急で来た患者 4 割しか入院していない。受け入れる段階ではベッドが満床というのは関係なく、どうしても入院が必要な場合はそこから受入れ先を探せばよいかと思う。輪番病院等は、まずは患者を受け入れるところからしていかなくは解決していかない。

(加藤)

4 月から新たな救急医療監視システムが稼働する。空床状況などを病院に入力してもらい、救急隊が空床状況を確認できるようになる。今後活用していただきたい。

(山口)

松坂市のように、救急患者に対選定療養費をいただくような考えはあるのか。

(加藤)

今のところはない。

(7)その他

(中尾)

働き方改革などを受けて、看護師が不足したり離職率が高くなっている。諫早総合病院では新卒者の半年以内の離職率などはどれくらいか。

(福嶋)

当院では、去年は全体で 4.4%、新卒は 10%に近かった。今年度は新卒者の退職予定はないが、全体の離職率は 5%ほどである。若干多く採用した年は、ついていけないなどを理由に退職する人がいるが、少ない採用者の年は、教育が行き届くためか離職者は少ない。

子育てをしながら働きやすい環境になっていることも、離職率が低い要因である。